明治日本の産業革命遺産

Nirayama Reverberatory Furnaces

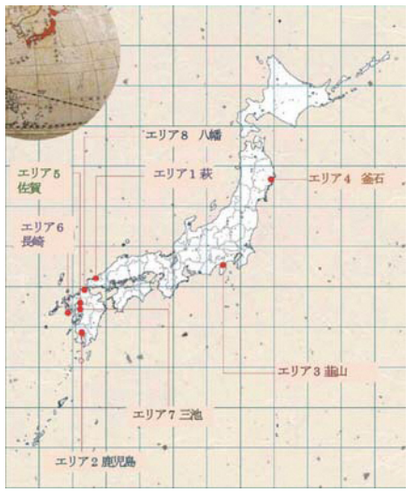
世界文化遺産
「明治日本の産業革命遺産
製鉄・製鋼、造船、石炭産業」

JAPAN'S MEIJI INDUSTRIAL REVOLUTION

明治日本の産業革命遺産は、西洋から非西洋への産業化の波及を顕し代表する日本国内８エリア、23資産から構成されており、平成27年(2015) ７月、世界文化遺産に登録された。

19世紀の半ばから20世紀の初頭にかけ、日本は工業立国の土台を構築し、製鉄・製鋼、造船、石炭産業という重工業分野において、急速な産業化を成し遂げた。産業化の歩みは、蘭書片手に試行錯誤での鉄製大砲鋳造への挑戦や、洋式船の模倣から始まった。次に、西洋技術の導入が行われ、専門知識の習得を行った。明治の後期には、国内で人材が育ち、積極的に導入した西洋の科学技術を国内に適合するよう改良を加え、産業経済の基盤を築いた。

このようにして、日本は非西洋諸国で初めて産業革命の波を受容し、50年余りという短期間に、植民地にならず自らの手で産業化を成し遂げた。



明治日本の産業革命遺産 エリア位置図

構成資産一覧

エリア	構成資産
エリア１ 萩	萩反射炉
	恵美須ヶ鼻造船所跡
	大板山たたら製鉄遺跡
	萩城下町
	松下村塾
エリア２ 鹿児島	旧集成館
	寺山炭窯跡
	関吉の疎水溝
エリア３ 韮 山	韮山反射炉
エリア４ 釜 石	橋野鉄鉱山
エリア５ 佐 賀	三重津海軍所跡
エリア６ 長 崎	小菅修船場跡
	三菱長崎造船所 第三船渠
	三菱長崎造船所 ジャイアント・カンチレバークレーン
	三菱長崎造船所 旧木型場
	三菱長崎造船所 占勝閣
	高島炭坑
	端島炭坑
	旧グラバー住宅
エリア７ 三 池	三池炭鉱・三池港
	三角西港
エリア８ 八 幡	官営八幡製鐵所
	遠賀川水源地ポンプ室

海防政策の革新

英龍は、行政官として能力を発揮する一方で、海防問題にも深い関心を寄せていた。江戸湾を中心とした海防政策をまとめていくために英龍がとった手段は、まず、蘭学者を通じて諸外国の実情を知ることであった。正確な情報があってはじめて的確な対策を立てることができるからである。

幡崎鼎（はたさきかなえ）や渡辺崋山（わたなべかざん）、高野長英（たかのちょうえい）といった蘭学者と親交を結び、より深く西洋事情を知っていく中で、日本にとって海防が必要不可欠であるとの思いを強くしたのであろう。

後に形を成す英龍の功績の多くは、この「海防」というテーマを実現するために推進された事業にほかならない。西洋砲術の導入と普及、品川台場の築造、パン食の導入、農兵制度や海軍創設の建議、そして反射炉による鉄製大砲の鋳造。いずれも日本に進出してこようとする列強国と、いかに対峙するかの具体的な方法論であった。

江川家住宅

江川英龍をはじめとして、代々世襲代官を務めた江川家の住宅。重要文化財に指定されている。韮山反射炉から車で約５分。

【入 場 料】・江川邸のみ
一　　般：750円（650円）
小中学生：300円（200円）
＊（ ）は20名以上の団体割引料金
＊韮山反射炉との共通入場券あり（次頁参照）
【開館時間】９時～16時30分
【休 館 日】年末年始（12月31日～1月1日）・毎週水曜日

江川邸公開事務室
【電　　話】055−940−2200
【Ｆ Ａ Ｘ】055−940−2201

反射炉築造への道

英龍が幕府に建言した海防政策を実現するためには、反射炉の築造が不可欠であった。しかし、幕府がその建言を取り上げて実際に築造を決定するには、ペリー来航を待たねばならなかった。

なかなか幕閣の理解を得られない中で、英龍自身は天保13年（1842）頃から反射炉の研究を進めていた。そのため、嘉永６年（1853）12月、ようやく反射炉築造の命を受けた時、ただちに必要な資材と職人を揃え、築造に取り掛かることができたのである。

英龍は、韮山反射炉の完成を見ることなく世を去ったが、反射炉築造という大型プロジェクト成功の功績は、まさにリーダーであった英龍に帰すると言える。情報収集と分析に始まり、人材の確保、実現可能なプランの策定など、事業を推進していく上で必要な「総合力」が、江川英龍という人物には備わっていたのである。

重要文化財 江川家住宅（江川邸）